

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300060		
法人名	株式会社リーフ		
事業所名	グループホーム 和田の杜	ユニット名	東ユニット
所在地	大分県中津市大字是則1371番地3		
自己評価作成日	平成23年9月24日	評価結果市町村受理日	平成23年12月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス 大分事業所		
所在地	大分県中津市耶馬溪町大字大島2640		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットのフロアーが50㎡と広く、窮屈感がなく居室のほとんどがフロアーに面している為、見守りも行いやすい。又、敷地内に同じく50㎡程の芝生や畑等有り、利用者様と野菜作り等が出来る。2ヶ月に1度は皆さんが乗れるバスにて外出を行い、気分転換や季節感を味わって頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東中津駅から程近く、主要道路に面した木造平屋建て2ユニットの「和田の杜」は、田畑や果樹園等の緑も多く残る閑静な場所に位置している。敷地内の畑では、入居者の方々と職員により多種多様な野菜が育てられ、収穫の喜びや食卓での味わいを共有しながら、日常の活性化につなげている。ゆとりある広さを持つ生活空間の中では、生活リハビリ等、機能維持や活用に向けた働きかけも積極的に行われており、個々人が持つ心身の力を発揮する場面を大切に捉えている。職員は、それぞれが自分の言葉で支援への思いを語り、カンファレンス等においても、個別ケアの実践に向けた方向性やアイデアについて、活発な意見交換が行われている。開設して1年目ではあるが、家族や地域の関係者の方々との関係性を育みながら、今、出来ることを大切に、本質的な支援に取り組もうとしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員が毎日業務前に必ず見る場所に掲示し意識付けを行っている。また、玄関先の見やすい位置に法人理念を掲示し、来園者にも理解して頂けるよう心掛けている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての独自の方針が作成されている。具体的に示された5項目の内容は、ケースカンファレンスの際には、支援の方向性の根拠として位置付けられる等、実践につなげる取り組みがある。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や校区内小学校行事への参加などを行い地域との交流を深めている。また地域自治会活動に法人として参加し積極的に地域住民との交流や理解を深めている。	町内会に加入しており、回覧板にて地域情報を収集し、地域行事や清掃活動に参加している。開設して1年目ではあるが、運動会参加時には席を設けて頂いたり、運営推進会議に小学校校長の出席を得る等、地域との関係性を積み重ねている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方に認知症に対する知識と対応を理解して頂く為に行政との協力のもと勉強会を計画している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	住民代表・区長・民生員・福祉課・家族代表の参加で意見交換を行いサービスの向上に活かしている。また施設の現状報告や事故報告(発生状況・今後の対策)を隠さず報告し透明性のある施設運営を目指している。	入居者・家族・複数の地域代表者・近隣小学校校長・他法人施設管理者・行政担当者等のメンバー構成にて開催されている。地域からの情報提供を受け地域行事に参加したり、活動報告・事故報告を行い、意見交換を行う等、開かれた事業所としての取り組みがある。	開設して間もない状況の中ではありますが、充実しているメンバー構成にて開催されています。現状の災害対策や施設等への取り組みについて、関係者の理解や協力を得ながら、話し合いや取り組みを積み重ねていくことが期待されます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告時、出席者から多くの助言を頂いている。また市町村の担当とは適宜連絡を取り合い実情報告を行うと共に指導を頂き連携を図っている。	開設して1年目でもあり、地域密着型サービスとしての運営について、相談や情報共有を行っている。運営推進会議には、中津市介護・高齢者福祉課担当者の出席を得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実情はない。但し施設の側に交通量の多い道路があり玄関の施錠(施錠管理をしているがいつでも外には出れる)については家族や地域の方に了解を得ている。またケア対策の中で身体拘束廃止に向けての意識づけを行っている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、禁止の対象となる行為やリスク、弊害について、職員間の共有認識を図るよう取り組んでいる。ゆとりある人員配置により、外出の意向がある場合には職員が寄り添い、散歩や買い物に出かけるようにしている。施錠されている現状については、関係者間で共有認識を図っている。今後も運営推進会議等において、継続した課題として取り上げていく予定としている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が毎日業務前に必ず見る場所に掲示し意識付けを行っている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の専門相談員と連携を図り対応している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に書面にて説明を行い納得して頂いている。利用者については精神面を考慮し、ご家族による説明で納得して頂いたのち利用して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、意見、要望をお聞きし運営に反映している。又、意見や要望を言えるような関係づくり心掛けています。玄関先に意見箱の設置を行うことによりご家族以外からも意見や要望を頂くことができるようにしている。	運営推進会議に家族の参加を得ている。2ヶ月に1回、日々の様子や行事報告、職員紹介等が掲載された通信「和田の杜」を発行し、家族への情報発信を行っている。また、積極的に行事案内を行う等、家族との関係性の構築に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を大切にしその都度対応できるよう努めている。また全体会議や日々のミーティングを行い意見に対して検討し施設運営に反映できるよう努めている。	月例の全体会議やユニット会議において、活発な意見交換が行われており、予定時間が延長することも多い。勤務シフトに関する職員からの提案があり、入居者本位の検討が行われ、実際に業務に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設運営状態の報告と共に職員の労働実情を報告している。また職能などを給料反映することにより向上心を持ち職務遂行できるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設運営の実情や報告、実際を見ることにより、ケアサービスの状況を把握している。また施設内外の研修への参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ネットワークの会に参加を促し同業者との交流を図っている。また推進会議に他の事業所の参加をして頂き交流機会を増やしている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前期訪問面談をご本人とご家族様に分け行き基本情報収集と共にニーズを引き出し相談を行い初期から安心して頂けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とお話の機会を増やし、ご家族の相談や不安、要望にお答えすることでご利用者様が安心して暮らせるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前期訪問での情報やアセスメント、ニーズなどから適切なサービスが提供できるよう検討している。また入居前の担当ケアマネとの検討も行き見極めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的介護ではなく、ご利用者様と一緒に家事やアクティビティなどを行うことにより、生活を共に支えあう関係の構築に努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、また書面にてご利用者様の状況をお伝えすることで情報を共有しご家族も支援に参加できるよう努めている。また施設行事にもご家族に参加して頂けており支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に相談し馴染みの方の面会や外出にご協力頂いている。また地域の行事に参加する機会を利用し馴染みの関係づくりに努めている。	現状に合わせた趣味活動の継続や、家族の協力も得ながら、馴染みの美容院の利用やお墓参りを支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性などを把握し相性の合う方々での食事テーブルの席決めやレクリエーション時のチームなど心地よい時間を過ごして頂けるよう心掛けている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に適宜面会させて頂き精神援助や相談を行っている。また適宜ご家族への相談援助を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様にお話し頂いたこと(生活歴・生活観等)や前担当事業所などからの情報を頂き思いや意向の把握に努める。又、ケアの中から感じ見いだせる事を検討し生活活動やアクティビティに活すよう努めている。	ユニット会議・個別カンファレンスにおいて、日常の中で表出された思いや意向について共有を図り、入居者本位の検討や、実現に向けた取り組みへとつなげている。	把握された情報を積み重ね、認知症支援の根拠となるものを職員間で共有していくことや、職員の新たな観察視点を確保していくためにも、アセスメント様式の工夫や充実への取り組みが期待されます。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前期面談にて、ご本人様やご家族様よりお話を聞きしている。また担当ケアマネージャーや担当支援事業者からも情報収集を行い相談連携を図り職員に周知している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、お一人おひとりの心身の状態をみながら職員間の情報を共有しその人に合った支援を行うよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意見要望や主治医の意見(医師の直接参加はないが、受診時などに現状を報告し意見を頂いている)を頂き職員間でケアカンファレンスを開催しケアプラン作成に反映させている。	本人、家族の意向を踏まえ、職員の意見を参考にしながら、丁寧に介護計画が作成されている。毎日のケアプラン実行チェック表や定期的評価をもとに、見直しへとつなげている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に日々のケア実践や状態を記録している。また業務日誌や申し送りを通し日々の情報を共有し実践に活かすよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適宜、ご本人やご家族の要望に出来る限り応じるよう柔軟に対応している。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や校区内小学校行事への参加などを行い地域との交流が出来るよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や往診は入居前からのかかりつけ医やご本人様ご家族様の希望される医療機関を利用して頂いている。健康状態の異変時には主治医と連絡をとり臨時受診の対応に努めている。	それぞれの方にとっての、これまでのかかりつけ医との関係性を大切に、往診、受診体制が整備されている。随時の連絡や、毎月、受診状況報告書を作成し、家族との情報共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、検温を行い健康状態や心身の状態を把握し体調不良者は看護師に報告し早期の対応に努めている。(常勤の看護師がいる)		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入院時に看護師からの申し送りや看護介護サマリーを情報提供して行っている。また入院中には面会に行き情報収集や精神面の援助に努め看護師やメディカルソーシャルワーカーと情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところ看取りを行うことに至っていないが健康状態の異変時はかかりつけ医や協力病院と連携を図り緊急の診療をお願いしている。また病状変化などはご家族へ診療結果を報告し情報の共有を図っている。	入居時に、重度化に向けた方針を説明し、同意を得ている。状況の変化に応じて、意向確認を行うとともに、対応方針の共有を図っている。かかりつけ医や複数の協力医療機関、協力施設との連携体制の構築とともに、各ユニットに看護職員を配置する等、緊急時や今後想定される重度化や終末期への支援について、体制の整備に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用様に安全に暮らして頂くために事故対策委員会を立ち上げており職員間でアセスメントを行い対策検討を情報共有している。また緊急時には看護師へのオンコール体制があり駆けつけられる状況である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡網の整備を行っている。年に2回の防災訓練をご利用者様と行うようにしており一度目は消火訓練や避難訓練を行っている。水害や地震災害訓練については今後計画していくよう努める。	年2回の訓練実施を計画しており、12月は消防署の立会いによる訓練を予定している。運営推進会議の中で、地域住民や消防団との連携体制が築けるよう、今後も働きかけを継続していく予定としている。	

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの生活や習慣を大切にし生活に馴染んだ言葉掛けや個人を尊重した対応を行うよう心掛けている。また個別ケース記録は施錠保管を行っている。	理念の一つとして、個別性の尊重や、人生の先輩に対する尊敬と敬意の念を持った対応について掲げている。特に排泄ケアの際の声かけや対応には留意し、居室内でのさりげない対応を心掛けている。これらを踏まえながら、親しみのある、伝わる言葉としての方言を、コミュニケーションの手段としている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の場面で自己決定ができるよう声掛けや後方援助などを行い自己決定に繋がるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタンダードの日課的なものはあるが、強制は無く、ご利用者様の習慣や状況、ペースを考慮し調整を行っている。また各自の選択で自室でゆっくりされる時間や個人の趣味の時間などもとれるよう心掛ける。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみにはご本人の趣味志向、生活習慣などを大切に、個々を表現できるように心掛けている。また清潔面にも配慮できるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様のできる範囲で調理や盛り付け、片付けなどをお手伝い頂いたりしている。また栄養士が嗜好情報や摂食率なども配慮しカロリー計算を行い献立を行っている。	栄養士の資格を持つスタッフにより、栄養バランスはもとより、嗜好や季節感に配慮された献立が作成されている。敷地内の畑で野菜(じゃがいも・トマト・大根・きゅうり他多数)の生育や収穫を楽しみ、食卓を賑わせたり、朝食のメニュー選択に個別の対応を行ったりと、「食」のプロセスを楽しむ機会や、個別の生活習慣に応じた柔軟な支援が行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給量のチェック表を用い職員間で情報共有でき随時不足者の補給ができるようにしている。また個々の状態により粥食や副食形体の変更を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い就寝前は義歯専用洗浄剤を使用している。また口腔環境を維持するために個々の状態に応じた援助時間や方法を工夫するよう努めている。		

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の残存した能力を発揮して頂けるようトイレでの排泄援助を心掛けている。またお一人おひとりの排泄パターンを把握することで失禁の減少や安易なオムツ使用防止に努めている。	個別の排泄パターンの把握や、仕草等のサインを見逃さないようにしながら、さりげないトイレ誘導を心掛けている。夜間についても、個別のニーズに応じた支援をカンファレンスにて検討している。水分摂取量の把握や食材・飲料の工夫、腹部マッサージ等により、出来る限り自然な排便となるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防対策で献立以外に乳製品や水分補給に野菜ジュースを取り入れている。また日々の活動の中で職員と楽しみながら体操や運動を行って頂く時間が取れるよう心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日に一度のスケジュールを組んでいるが、当日の状態やご本人の意向で入れない時は、ご本人を尊重し柔軟に日時の変更を行っている。またソープや入浴剤等、習慣的のものなど取り入れるよう心掛けている。	基本的な週3回の入浴スケジュールはあるが、日曜日以外は毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟な対応を行っている。ソープの選択や入浴剤の使用に、生活習慣や希望を取り入れる等、細やかな支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体的精神的に支障を来さないよう声掛けやアプローチは行うが、無理に起床させたり睡眠を強制したりしないようにし、お一人おひとりの生活習慣やペースに合わせて休息や睡眠をとって頂けるよう心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤は看護師が管理しており看護師の指示の下服薬援助を行っている。病状変化時などの内服については主治医の指示を受けている。また処方内容については個別ケース記録で情報共有できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴や役割を活かして炊事や掃除、お買い物のお手伝いなどを楽しくできるよう努めている。またご利用者様同士の関係性にも配慮しご本人の負担にならないよう心掛けている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が可能な限り、散歩や買い物同行などの機会をなるべく設けられるように努めている。また季節の外出行事や地域行事に出かけるよう努めている。その外に、ご家族への相談を行い支援の要請を行いご協力を頂いている。	その日、その時の外出希望には、出来る限りの対応を行っている。周囲の散歩や敷地内での畑作業、日光浴等、日常的に外出の機会を設けている。今、出来ることを大切に捉え、外出・外食行事を積極的に企画している。	

大分県 グループホーム 和田の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望があり、ご家族様の了解を頂いている方については、ご自身で所持している。またその他の方については施設で一定額をお預かりしご本人様必要時に使って頂くようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から電話や手紙の要望がある時は支援を行っている。また友人やご家族以外の関係者についてはご家族様の了解を頂いている方への連絡支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然光を取り入れ広く設置することで開放感を感じて頂き、運動もでき楽しく利用できる空間となっている。また思い出の行事写真や作品を展示している。	天窓が設置されている高い天井から自然光が差し込み、開放的な共用空間の広さを更に印象付けている。畳スペースやソファも設置され、その時々に応じた寛ぎの場所も確保されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを広く設置してありテーブル空間やソファ、畳などの設置があり個々の空間もつくりやすいようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思いを大切にし入居時に使い慣れた家具や寝具、趣味の物などを持ち込んで頂いている。また居室内の装飾や配置などもご本人様の意向を尊重できるように心掛けています。	各居室には、トイレ・洗面台が設置されている。使い慣れた筆筒やソファ、椅子、テレビ等が持ち込まれ、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全な活動ができるようバリアフリーで手すりを設置している。ベッドはご希望により立ち上がりバーをセットさせて頂いている。また、居室や席にはネームの表示を行いご自分で確認できるようにしている。		